

横浜国際港都建設審議会

第2回 第2部会(グローバル化関連)

～第2回の審議の進め方～

将来の横浜のあるべき姿やその実現に向けた課題や論点、方向性などについて、幅広くご意見をいただきます。次回第3回では、1・2回の議論を集約していくことで第2部会としての「横浜の目指すべき都市像」の整理につなげます。

1 グローバル化をとらえる視点について

第2部会で審議を進めていくにあたり、「グローバル化」をとらえる視点についてご審議いただき、視点の共通化を図ります。

～資料 『「グローバル化」をとらえる視点について(参考)』～

2 横浜の目指すべき姿とその実現に向けた方向

第1回部会の審議などを踏まえ、第2部会で審議する項目を大きく3つの枠組みに整理し、これまでに出示されたご意見の要旨を整理しました。

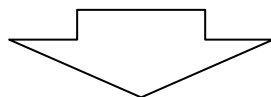
これらの大きな枠組みごとに、論点や目指すべき方向などについて、ご審議いただきます。

～資料 『第2部会(グローバル化関連)における検討のアウトライン(案)』～

<参考資料> 事前配付

(追加資料)市街地開発事業の状況

今後の進め方(参考)



…次回(第3回)部会…

今回の審議を踏まえ、大きな枠組みごとに見えてくる「横浜の目指すべき都市像」を整理し、その実現に向けた「施策の方向」について審議します。

なお、各部会が整理した「横浜の目指すべき都市像」に基づき、『起草委員会』が全体を調整し「都市像」の案を整理していきます。

平成17年7月29日

「グローバル化」をとらえる視点について

< 社会経済のグローバル化 >

交通手段の発達や情報通信技術の著しい進歩により、人、もの、金、情報などの移動が、量的増大とスピードの加速を伴いながら地球規模で広がり、社会経済の状況に大きな影響を与えている。



< 第2部会の役割 >

上記のような社会経済の変化の中で、横浜が国際社会の一員としての責任を果たしつつ、横浜らしい歴史や文化が活かされた、活気と個性ある都市にしていくための指針を描く。

(検討項目の例示)

国際交流、文化芸術、観光、産業・経済、都市整備、環境、省資源・循環型社会など、非常に幅広い分野に関連する。

< 考えられる視点 >

国際化、情報化などあらゆる側面で急速なグローバル化が進む中で、その影響や対応の方向などについて、次のような視点などから議論を深め、望ましい都市像を検討する。

「世界標準化の流れと地域固有性の尊重」

世界経済のグローバル化や情報化の進展とともに、企業競争などにより世界標準(グローバルスタンダード)化が進み、地域固有の資源や文化が埋没し失われていく可能性がある。横浜らしい都市の個性を尊重し、オンリーワン都市を目指していく必要がある。

「広域化と狭域化する様々な課題」

環境・経済など様々な分野において、首都圏・全国・アジア・世界と大きく広域化する課題と、市内各地域・地区・コミュニティなど身近できめ細かな対応が必要な課題など多様化している。357万人市民の大都市として適切な空間スケールでの対応を重視する必要がある。

「経済と環境を両立する持続的な都市発展」

大都市として市民の雇用確保や産業振興など経済活性化を目指すとともに、将来に向けて水や緑などの貴重な環境を維持保全する必要がある。つまり、エコノミーとエコロジーの調和を図りながら、持続可能な都市発展を目指さねばならない。

第2部会(グローバル化関連)における検討のアウトライン(案)

前部会会で出された意見 個別に委員からいただいた意見・市民の意見(7/24横浜の未来を考えるシンポジウム)

枠組	論点	主な意見	備考
国際都市	外国人市民との交流	地域や市民生活レベルの国際化や多文化交流が必要。 ローカルがグローバル化していく、いわゆるグローカルを考えるべき。 外国人市民のまちづくりへの参加が必要。 外国人が公務員や消防団員など地域的な集団に参加できるようになるといいのではないか。 外国人市民や外資系企業については、人と人のつながりが重要である。外国人に優しい街であるという印象を持ってもらうことが必要。 外国人市民の暮らしやすい生活環境は新たにつくるのではなく、もともとあるまちの雰囲気を活かしながら、外国人市民も日本人も暮らしやすい生活環境を整えるべきである。	
	観光振興	日帰り客を取り込みつつ、泊ってみたくなるまちづくりが今後重要になる。	
	教育、人材育成	多文化共生を考える上で、教育の問題は避けて通れない。 言葉だけでなくコミュニケーション能力を持ったグローバルな人材の育成が必要。 人間の中身が大事である。教育に熱心な街、横浜に住むと熱心に教育してくれるといわれるようになると思う。 外国人の教育環境を整える中で、日本人の教育を見直すきっかけにもなるのではないか。 ・グローバル化によって船員が大きく減少しているが、能力のある外国人を活用するためにも、船員の60%以上を占めている部員を教育する、国際的な船員教育機関をつくったらいいのではないか。	
	情報化	ICT(インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー)を活かしたまちづくりが重要になる。 電車内の携帯電話の取り扱いなど国際的な違いを検討すべき。	
	文化芸術	・歴史的建築物など景観を活かした都市整備が必要。	
都市構造	東京との関係	現在の人口推計の傾向を前提とすると、東京のベッドタウンを肯定することになるのではないか。 都市構造は首都圏全体で見ることがあり、横浜発で首都圏全体の絵を描く必要があるのではないか。	
	職住接近	横浜に住んで働ければ女性や高齢者も働きやすい環境になる。 今後退職世代になる団塊の世代の人たちの活用が重要であり、マッチングの仕組みなどを考える必要があるのではないか。	
	都市農業	野菜類の中には横浜市内では賄えないものがかなりあると思うので、どのように食べられるまちづくりをしていくのか考える必要がある。 都市と農業を分けて考えるのではなく、都市の中での新しい農業を考えられないだろうか。	
	都心や副都心の機能	居住の場、就業の場、学び遊ぶ場などが身近にバランスよく存在するコンパクトな都市づくりが重要である。 業務核都市的な多心型都市構造ではなく、生活に密着した心をつくっていく必要がある。 生活の質を向上させるために都市空間の質を高めることが必要であり、都市の中に、バランスよく人々が集まれて、自然にコミュニケーションできる空間をつくる必要がある。	
	産業の活性化	IT・バイオ・ナノ環境など、活力ある産業の集積が必要。 外国人研究者や技術者の積極的受け入れによる企業の国際展開の推進が必要であり、外国人の学校や病院などの生活環境を整え、横浜は住みやすい、研究しやすいまちといわれることが必要。 外国人労働者の受け入れは国策であると思うが、特区的に場所や職種を限定してやってみるといっても考えられるのではないか。 経済の競争力は企業に任せ、行政は再チャレンジできる仕組みや安定した暮らしを支えることにより、結果としてグローバル都市になるのではないか。 ・横浜は国際的産業を大事にしてきたので、それを伸ばせばいいのではないか。 ・市民や市が出資して横浜に政策投資銀行的な銀行をつくり、地場企業の育成を図ることが必要ではないか。	
	交通ネットワーク	羽田空港の再国際化を図り、これを活用した横浜独自の産業展開を図るべき。 上海、仁川(インチョン)と連携してアジアのハブを担うといいのではないか。	
環境行動	地球環境	ヒートアイランド対策には大きな緑の配置が効果的。	
	自然環境	希少種等、横浜に残されている豊かな自然環境の保全や再生が必要。	
	身近な自然	河川、海、緑地、農地など貴重な環境資源を活かしたまちづくりが必要。	
	省資源、循環型社会	環境に配慮したライフスタイルや企業活動への転換のほか、インフラの整備、環境負荷を軽減する新たな技術開発の推進やリサイクルのさらなる推進など、循環型社会に向けた仕組みづくりが必要。 ・G30の実績を活かしながら、大都市型の環境対策のあるべき姿をビジョンに取り入れてほしい。	
	環境と経済の調和	環境と経済がトレードオフの関係ではなく、環境に配慮するほど競争力や魅力が発揮できるような都市構造を考える必要がある。	

枠組みについては、第1部会会の審議を踏まえ、仮に3つの大きな枠組みとして整理したものであり、今後の議論によって変更する場合があります。